

色を扱う会社から、構造を扱う会社へ。

代表 桜木笑語の言葉より

2026年10月9日、旧ロゴにあった印刷の4色のマークをなくし、「iXlab」の5文字だけのロゴにした。そう決めた理由、色の考え方、Xの意味をまとめる。使い方は2・3ページ。

01 なぜ、モノクロなのか 代表 桜木笑語の言葉より

これまでのCMYKは、「印刷」を象徴する色でした。
しかし、これからのイクスラボは、特定の印刷技術や製品だけに自分たちを定義しません。
余計な装飾を削ぎ落とし、ものづくりの本質、構造、課題に向き合う。
その姿勢を象徴するため、コーポレートブランドをモノクロへ変更します。
色を扱う会社から、構造を扱う会社へ。
モノクロは、「何もない」という意味ではありません。
さまざまな技術、サービス、アイデアを受け入れるための土台です。

これまで 2023年7月からの旧ロゴは、シアン・マゼンタ・イエロー・ブラックの4色を組み合わせたマークと「iXlab」の文字。

いま 2026年10月9日から、マークをなくした「iXlab」の5文字だけ。
黒で表し、暗い背景では白抜き。印刷の黒は C40 M40 Y40 K100。

02 色の考え方 ブランドの決まり

会社の面と骨格は白黒、色は価値として一点だけ現れる。

白 #FFFFFF
Paper #F8F8F5
Ink #171719

面 白・Paper・Ink
面は白黒の中で切り替える

課題を価値に変え、 人を幸せにする
iXlab

骨格 ロゴ・文字・1pxの罫
ロゴは原本色か白抜き。文字は Ink

課題を価値に変え、 人を幸せにする
iXlab

一点 赤 #CF1B1B
価値が生まれた所だけ、1画面1か所

Brixa と並べるときの決まり

塗らない iXlab のロゴは、原本色か白抜きだけ。ほかの色で塗らない。

合わせない Brixa のロゴと色は、Brixa の決まりのまま。iXlab に合わせて変えない。

分ける Brixa の色を、iXlab の面・文字・罫に持ち込まない。

空ける 並べるときも、iXlab のロゴの周りに2Sを空ける。

03 Xの意味 ロゴの制作者の説明の要旨

X：ほかの文字より大きく、横幅を広く取る



Xは、右を向いた「＞」と左を向いた「＜」が中央で向かい合う形。

中央で向き合う2つの形で、人・知識・アイデア・技術が交わり、掛け合わさって新しい価値に変わっていく姿を表す。Xをほかの文字より大きく、横幅を広く取り、社名の核であることを示す。

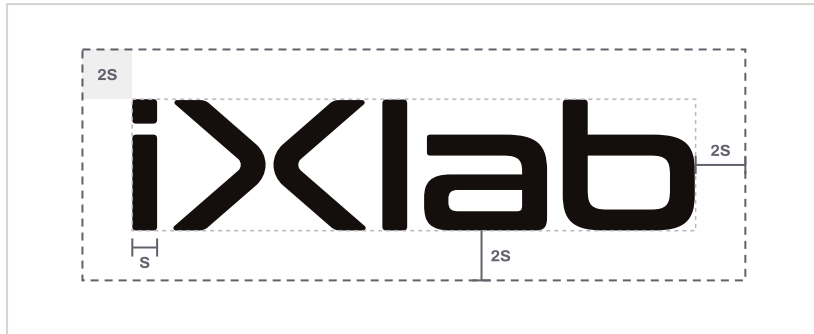
この形を、ブランドの表現「向き合う二つの形」の元にしている。

ロゴの使い方

保護領域・最小サイズ・色と背景

2026年10月9日からのロゴを、形・色・縦横比を変えずに使う。寸法の単位はS＝「i」の縦画の太さ（ロゴの高さ×0.189）。

01 保護領域

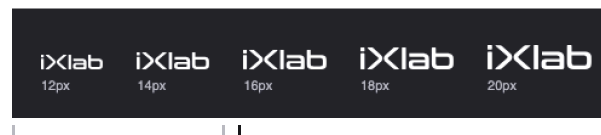


ロゴの四方に**2S**（ロゴの高さの約0.38倍）を空ける。
この範囲に、ほかの文字・図・写真の端を入れない。

02 最小サイズ

画面

16px 高さ（幅69px）以上



12・14px：判別しにくい

16px以上：Xの二つの形が分かれて見える

上は、12～20pxで表示したときの画素を4倍に拡大したもの。

印刷

15mm 幅（高さ3.5mm）以上



左は実寸（100%で印刷したとき）。
Xの隙間が0.2mm以上になる大きさ。

16px未満・正方形の場面はシンボル（Xだけ）



サイト
アイコン

PR TIMES
300×300

SNS
400×400

PR TIMES・SNS・ホーム画面は白地。Xの外接円の外に2Sを残し、丸く切り抜かれても欠けない。

03 色と背景

	原本色	画面 #140E0C 印刷 C40 M40 Y40 K100（4色の黒） 明るい背景に使う
	白抜き	#FFFFFF 暗い背景に使う

明るい背景は原本色、暗い背景は白抜き。
台紙（白い箱）は敷かない。
灰色などの中間の背景は、両方の比を測り、
コントラストの高いほうを選ぶ（3:1未満にしない）。
写真の上は平らな所に置き、同じように選ぶ。

原本色



OK 白

19.1:1



OK Paper

18.0:1



OK 明るい灰色

9.8:1



NG 暗い灰色

3.2:1



NG Ink

1.1:1

白抜き



NG 白

1.0:1



NG Paper

1.1:1



NG 明るい灰色

2.0:1



OK 暗い灰色

6.0:1



OK Ink

17.9:1

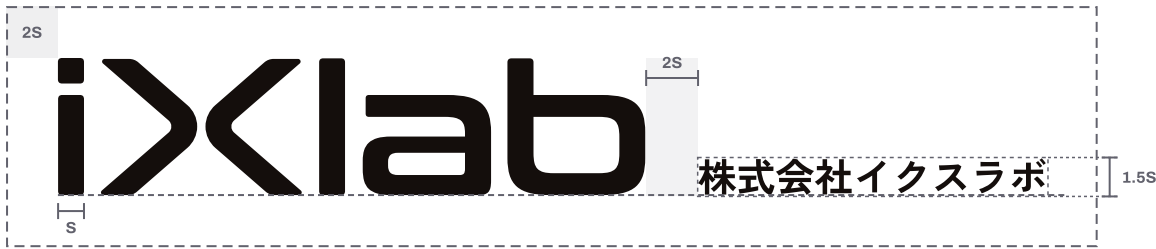
数字は WCAG 2.x のコントラスト比。暗い灰色では原本色も 3:1 を超えるが、比の高い白抜きを使う。

ロゴの使い方 組み合わせ・してはいけないこと

社名と組むときは、横組みと縦組みの2つだけを使う。データは配布版（社名をパスにした SVG）を使い、社名を打ち直さない。

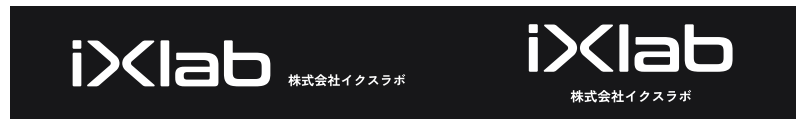
04 組み合わせ 点線の枠は社名の字の大きさ（1em）、外周の破線は組み合わせの保護領域（2S）

横組み：社名の字面の下端を、ロゴのベースラインにそろえる



社名	株式会社イクスラボ。Zen Kaku Gothic New Bold・字の大きさ 1.5S （ロゴの高さの0.28倍）・ベタ組み。色はロゴと同じ
間隔	ロゴと社名の間は 2S （ロゴの保護領域の外）。組み合わせの周りにも2Sを空ける
最小	ロゴの高さで、画面 44px （社名12.5px）・印刷 7.5mm （社名6pt）以上

縦組み：社名の字面の中心を、ロゴの中心にそろえる



暗い面は白抜き（社名も白）

05 してはいけないこと



NG 色を変える（ブランドの赤でも）



NG 縦横比を変える



NG 回転・斜体にする



NG 影や縁取りをつける



NG 台紙（白い箱）を敷く



NG Xだけ大きくする・組み替える



NG 細かい柄・写真の上に置く



NG 暗い面に原本色



NG 社名の書体・大きさを変える



NG 保護領域に文字を入れる

色・形・縦横比を変えると、別のロゴに見える。影や台紙は「盛る」表現になる。細かい柄や写真の上と、暗い面の原本色では、Xの二つの形が読めない。

見本を置かない NG：赤い面に置く（赤は価値の一点の色で、面には使わない）。

社名は、決めた書体・大きさ・位置で組んだ配布版だけを使う。